

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-262936

(43)Date of publication of application : 17.09.2002

(51)Int.Cl.

A45D 40/20

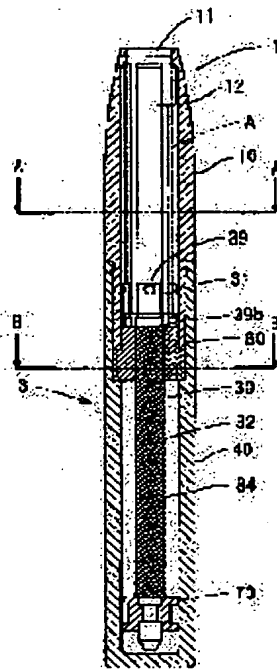
B43K 23/016

(21)Application number : 2001-061771 (71)Applicant : SUZUNO KASEI KK

(22)Date of filing : 06.03.2001 (72)Inventor : OBA ATSUSHI

(54) FEEDING CONTAINER FOR STICK COSMETIC

【図1】



(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a feeding container for a stick cosmetic whose screwing mechanism between a core chuck member to retain a stick cosmetic and the container body or a tip cylinder has no rattling and can give weight of sliding.

SOLUTION: This feeding container feedably houses a stick cosmetic. The tip cylinder 10 with a tip end opening hole 11 in which the stick cosmetic is moved forward/backward is rotatably connected with the container body 3. A core chuck member 30 formed of a cosmetic retaining part 31 on the tip end is inserted thereinto. An engaging part 39b of a nail piece 39 of the core chuck member 30 is engaged with a slide groove 12 inside the tip cylinder 10 to make a rotation stopper mechanism. A screw part 34 is equipped on a rod body 32 of the core chuck member 30. An elastic cylinder body 60

with a through hole 61 is fixed in the container body. An engaging part 68 is equipped in the through hole 61 and the diameter of the through hole 61 is made smaller than the outer dimension of the rod body 32 of the core chuck member 30 to constitute a screwing mechanism together with the screw part 34 on the rod body 32.

公開実用 昭和63- 202208

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 202208

⑬ Int.Cl.⁴

A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号

B-6671-3B

Z-6671-3B

⑭ 公開 昭和63年(1988)12月27日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 化粧具付き化粧液容器

⑯ 実 願 昭62-93090

⑰ 出 願 昭62(1987)6月17日

⑱ 考 案 者 中 村 弘 幸

⑲ 考 案 者 遠 藤 修 三

⑳ 出 願 人 株式会社吉野工業所

㉑ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

東京都江東区大島3丁目2番6号

明 細 書

1. 考案の名称

化粧具付き化粧液容器

2. 実用新案登録請求の範囲

下部内部を縮小して化粧液を収納した細長な容器体 1 と、この容器体 1 の口頸部 6 に内嵌固定された液切り筒 2 と、数枚の羽根 7 を有して前記容器体 1 中間部に回転可能に内设された攪拌子 3 と、前記口頸部 6 外面に螺合装着されたキャップ 4 と、このキャップ 4 から前記液切り筒 2、攪拌子 3 を通して容器体 1 内下方に垂下し、先端にブラシまたは化粧筆等の化粧具 8 を取付け、かつ途中で攪拌子 3 に縦条係合され、キャップ 4 の螺退操作による引抜き時攪拌子 3 を回転駆動させる筆軸 5 とからなる化粧具付き化粧液容器。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案はマスカラ、アイライナー等の化粧具付き化粧液容器に関する。

「従来 of 技術」

この種容器は、容器体口部に装着されるキャップに、先端に設けたブラシ、化粧筆等の化粧具が容器体底部に届く長尺の筆軸を取付け、これを常時液中に漬けておき、化粧時にキャップにより容器体口部の液切り筒を通して引き抜いて使用するようになっている。

「考案が解決しようとする問題点」

マスカラ、アイライナー等の化粧液は粘性が高く、放置しておくとき容器体の壁面に付着して固まり、有効液量が減るばかりでなく、液の濃度を低下させる。

本考案は、容器体に羽根付きの攪拌子を内設し、化粧具引抜き時に筆軸でこの攪拌子を回転駆動させて化粧液を攪拌すると共に容器体壁面の付着物をかき落すようにした化粧具付き化粧液容器を得るにある。

「問題点を解決するための手段」

本考案の化粧具付き化粧液容器は、下部内部を縮小して化粧液を収納した細長な容器体1と、この容器体1の口頸部6に内嵌固定された液切り筒

2 と、数枚の羽根 7 を有して前記容器体 1 中間部に回転可能に内设された攪拌子 3 と、前記口頸部 6 外面に螺合装着されたキャップ 4 と、このキャップ 4 から前記液切り筒 2、攪拌子 3 を通して容器体 1 内下方に垂下し、先端にブラシまたは化粧筆等の化粧具 8 を取付け、かつ途中で攪拌子 3 に縦条係合され、キャップ 4 の螺退操作による引抜き時攪拌子 3 を回転駆動させる筆軸 5 とで構成している。

「作用」

上記において、化粧時にはキャップ 4 を口頸部 6 から外し、このキャップ 4 と一体の筆軸 5 を引抜くが、この引抜き時に筆軸 5 と化粧具 8 を液切り筒 2 を通して筆軸 5 外面を拭うと共に化粧具 8 の含み液量を適量に絞る。

ここで、筆軸 5 は攪拌子 3 と縦条係合、つまり昇降は自在であるが回転方向には係合しており、一方キャップ 4 は螺退操作して取外すので、引抜きの取外し時筆軸 5 は回転し、従って攪拌子 3 も同体に回転するので化粧液を攪拌し、化粧液の固

化付着を防止する。また攪拌子 3 を容器体 1 内壁面に極く近接させるよう配設しておくことにより内壁面の固化付着した化粧料をかき落すことができ、再び液化させることができる。尚、容器体 1 内下部を化粧具 8 が挿入できる程度に狭くしてあるので、化粧液を残すことなく使い切ることができる。

「実施例」

第 1 の実施例（第 1 図、第 2 図）

容器体 1 は、胴体となる金属化粧筒 1a の上部開口部に縮径した口頸部 6 を持つ口部部材 9 を嵌着し、また底部開口部に底部部材 10 を嵌着し、この底部部材 10 底面に金属化粧底板 11 を接着して形成してある。底部部材 10 はかなり肉厚であり、これにより容器体 1 内下部を化粧具 8 が入りうる程度に狭めている。12, 13 は封止用 O リングを示す。

液切り筒 2 はゴム或いは軟質合成樹脂等の軟弾材からなり、上端に口頸部 6 口頂部に掛止めする外向きフランジ 14 を設け、下部を筆軸 5 に圧接する絞り口に形成して口頸部 6 に粗面により内嵌固

定してある。

攪拌子 3 は、筆軸 5 が通過できる軸芯部の短筒体 15 外面から 90 度間隔で 4 枚の羽根 7 を放射方向に突設した形状のもので、前記口部部材 9 と底部部材 10 間の容器体 1 中間部に回転可能に内装されている。この場合、羽根 7 群が容器体 1 内壁面に極く近接するよう配設しておくのがよい。尚、羽根 7 群は第 2 図 b, c のように、ストレートまた捻った形状のいずれであってもよい。

キャップ 4 は、下半部内面にねじを形成した筒条体 16 外面に金属材料による化粧キャップ体 17 を嵌着したものである。

筆軸 5 は、上部を大径筒部 18 とし、この大径筒部 18 をキャップ 4 の上半部内面に挿着すると共に係合突条 19, 20 の係合でキャップ 4 に取付け固定し、また大径筒部 18 直下の液切り筒 2 部分の中間部を小径筒部に、そして下部を棒体とし、この棒体下端にブラシ等の化粧具 8 を取付け、また棒体の上端部の一側外面に前記攪拌子 3 の羽根 7 に係合する係合片 21 を楔状に突設している。

第 2 の実施例 (第 3 図、第 4 図)

この実施例では、容器体 1 は、下半部を化粧具 8 が入りうる程度に絞った内部体 1b を金属化粧体 1a に内嵌した 2 重容器体構造とし、液切り筒 2 は筒体の中間部内面から絞り口を内向きに形成し、筒体下端外面に係合突条 22 を設け、この突条 22 と外向きフランジ 14 とで口頸部 6 内面段部間に挟着させて取付け、攪拌子 3 は、摺鉢状筒体 23 の上面両側から羽根 7, 7 を立設し、筒体 23 の小径開口内周縁に多数の縦溝を形成し、一方筆軸 5 の下部を前記縦溝に係合するスプライン軸状 24 とし、そして筆軸 5 は上端筒部でキャップ 4 と一体に形成している。この実施例も第 1 の実施例と同様の作用、効果を奏する。

上記で、金属部分を除いた各部は合成樹脂材で成形製作される。

「考案の効果」

上記した如く本考案では、容器体 1 に攪拌子 3 を回転可能に内装し、この攪拌子 3 とこれを挿通する筆軸 5 とを縦条係合し、化粧具 8 引抜き時、

この筆軸 5 を介し攪拌子 3 を回転駆動するように構成したので、化粧液を攪拌して固化を防ぐと共に、固化付着物をかき落すことができる。また容器体 1 内下部を化粧具 8 が入りうる程度に狭めたので、化粧液を使い切ることができ、無駄な残量が生じない。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図、第 2 図 a, b, c は本考案化粧具付き化粧液容器の第 1 の実施例を示し、第 1 図は半部縦断面図、第 2 図 a は筆軸要部の斜視図、同図 b, c は羽根形状の異なる攪拌子の斜視図、第 3 図と第 4 図は第 2 の実施例を示し、第 3 図は半部縦断面図、第 4 図は分解斜視図である。

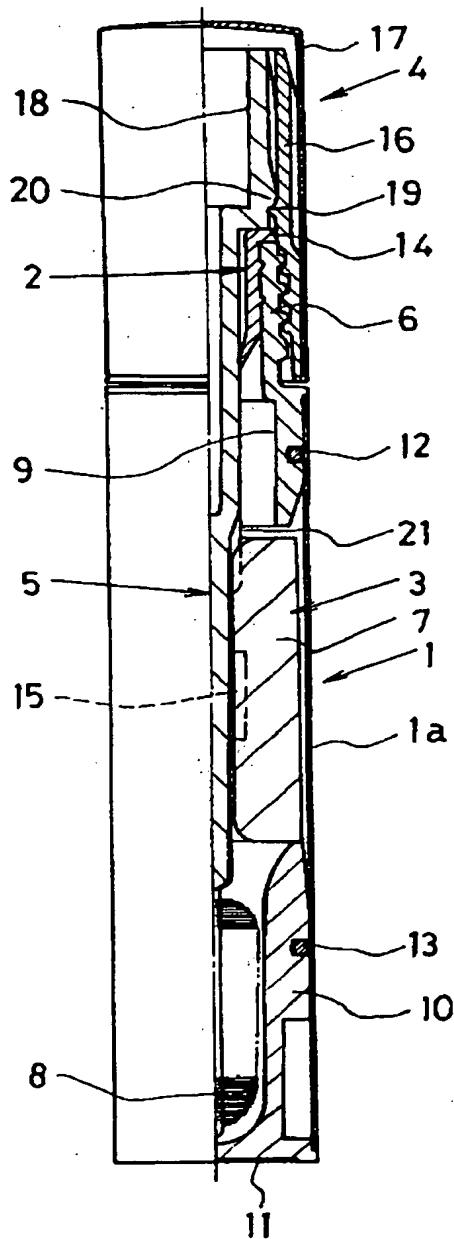
- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1 … 容器体 | 2 … 液切り筒 | 3 … 攪拌子 |
| 4 … キャップ | 5 … 筆 軸 | |

出願人 株式会社 吉 野 工 業 所

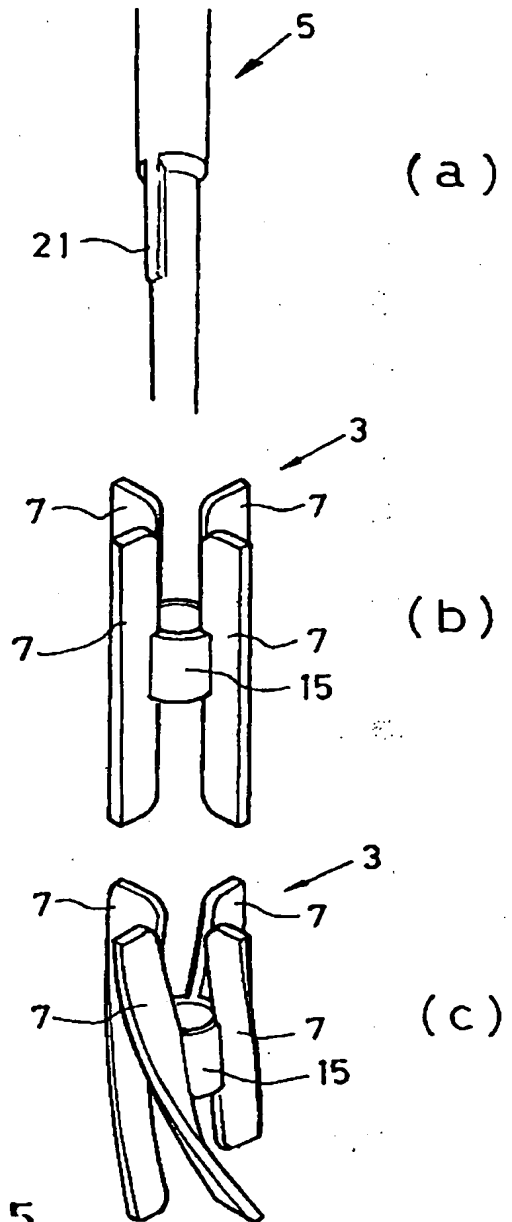
代理人 弁理士 今 岡 良 夫



第 1 図



第 2 図



85

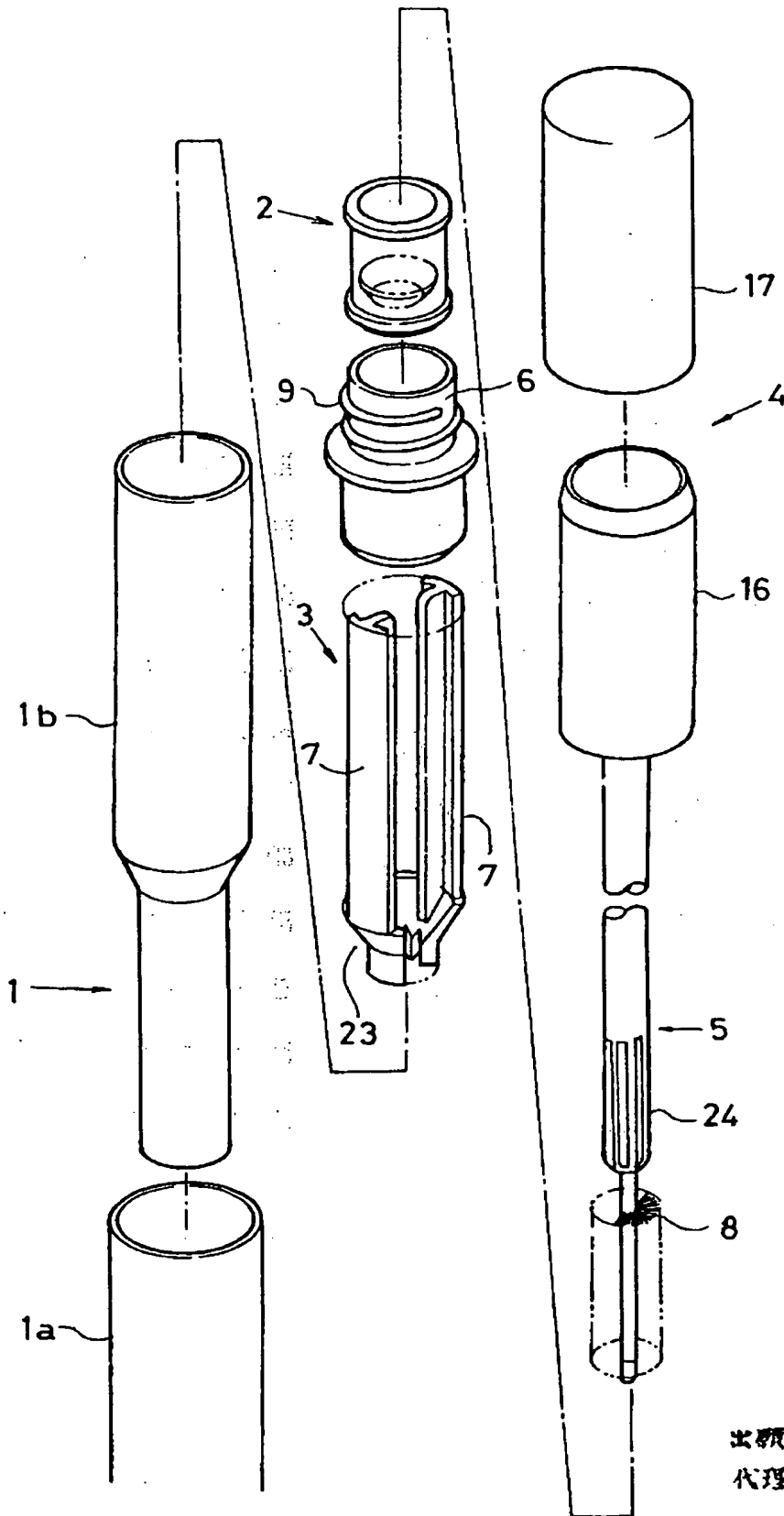
出願人 株式会社 吉野工業

代理人 (弁理士) 今岡 良

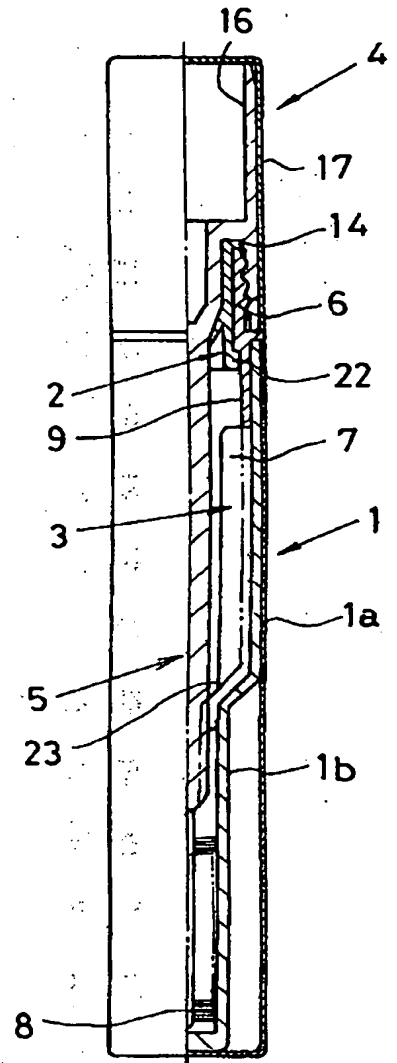
実開 63-202208



第 4 図



第 3 図



86

出願人 株式会社 吉野工業所
代理人 (弁理士) 今岡 良夫

手続補正書

11 20

昭和 62 年 7 月 28 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 実願昭 62-93090 号

適



2. 考案の名称 化粧具付き化粧液容器

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都江東区大島 3 の 2 の 6

名 称 (690) 株式会社 吉野工業所

代表者 吉野 弥太郎

4. 代 理 人

住 所 東京都新宿区新宿 2-4-3 大橋第 2 ビル 11 F

電話 3 4 1 - 7 4 4 6 (代) ㊦ 160

氏 名 弁理士 (6815) 今 岡 良 夫



5. 補正命令の日付 自 発 補 正

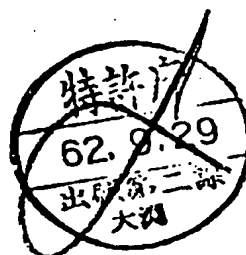
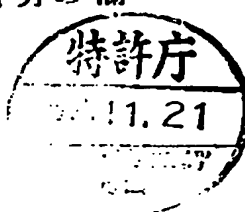
6. 補正の対象

(1) 実用新案登録請求の範囲の欄

(2) 考案の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

別 紙 の 通 り



方式
審査



87

補正の内容

1. 実用新案登録請求の範囲の欄

別紙の通り

2. 考案の詳細な説明の欄

(1) 明細書第2頁第12行

同第5頁第3行

同第5頁第6行

同第5頁第7行～第8行

同第5頁第19行

同第6頁第9行

以上計6箇所に「羽根」とあるを、

「かき落し部片」とする。

(2) 同第2頁第18行～第19行

「下部内部を縮小して」とあるを削除する。

(3) 同第3頁第1行

「数枚の羽根」とあるを「かき落し部片」とする。

(4) 同第6頁第13行

「ている。」とあるを、

「ている。上記かき落し部片7、7も第1実施

例の場合と同様、ストレート又は捻った形状の
いずれでもよい。」とする。

(5) 同第 6 頁第 18 行 ~ 第 7 頁第 6 行

「上記した如く～生じない。」とあるを、

「上記した如く本考案では、攪拌子 3 を回転可能に内装した容器体 1 の口頸部にキャップ 4 を螺合し、該キャップから垂下する筆軸 5 と上記攪拌子 3 とを縦条係合させたから、筆軸下端の化粧具 8 使用のために容器体口頸部からキャップ 4 を螺退し又螺合する度に攪拌子 3 も筆軸 5 との係合により連動して回されることとなり、キャップの螺合、螺脱操作が攪拌子回動操作を兼ねることとなり、よって攪拌子回動によるかき落し等を別操作で行う面倒がなく、かつキャップ取外しの際には必ず上記かき落しと化粧液体攪拌とが行われるため、常に適正濃度の化粧液を上記化粧具 8 により取出し使用することが出来る。」とする。

実用新案登録請求の範囲

化粧液を収納した細長な容器体 1 と、この容器体 1 の口頸部 6 に内嵌固定された液切り筒 2 と、かき落し部片 7 を有して前記容器体 1 中間部に回転可能に内设された攪拌子 3 と、前記口頸部 6 外面に螺合装着されたキャップ 4 と、このキャップ 4 から前記液切り筒 2、攪拌子 3 を通して容器体 1 内下方に垂下し、先端にブラシまたは化粧筆等の化粧具 8 を取付け、かつ途中で攪拌子 3 に縦糸係合され、キャップ 4 の螺退操作により引抜き時攪拌子 3 を回転駆動させる筆軸 5 とからなる化粧具付き化粧液容器。

